

柿生文化

柿生郷土史料館 情報・研究誌

住所:川崎市麻生区上麻生6-40-1

柿生中学校内

電話:070-1503-6401・044-988-0004

<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>

第192号

白井義胤翁
を訪ねて 13

遠い先祖の恩人を思い浮かべて

小林 基男 (柿生郷土史料館専門委員)

岩戸胤安と阿多津

義胤翁が、幼い竹若(後の6代白井家城主、白井興胤)の生命の危機を救った恩人として、その功績を何としても後世に伝えたいと考えた二人とは、白井一族に連なる岩戸城主、岩戸胤安と竹若の乳母の二人です。

岩戸胤安の名は、彼が竹若を預けた鎌倉建長寺の記録に残っておりますので、確認できるのですが、彼と同じく竹若の生命の恩人である乳母については、その名は不明です。時代は鎌倉幕府の衰退期です。鎌倉時代の女性の名は、何が正しいか分からないことが殆どです。頼朝の妻は政子と言われていますが、彼女が政子を名乗ったのは、鎌倉殿としての頼朝の地位が盤石となり、妻である彼女にも京都の朝廷から官位が授けられることになった時、初めて政子と記されたことが、明らかになっているのです。高位の女性ですらこのようなのですから、召使の女性の名というのは無きにひとしかったのです。当然、彼女が顔見知りとはいえ、岩戸領を差配する有力武将の胤安に、幼少の若君の危難を伝えた時も、「竹若様のお世話をしている者です。…」と名乗って、胤氏の逆心と若君の生命の危機を伝えたのでしょう。胤安が乳母の名を知ること、彼女の名を誰かに告げることもありえません。

熱心なキリスト教徒からは、この不信心者と叱られるでしょうが、イエスの母はマリアで通っています。イエスが神の子と伝承されたのは、12使徒と言われるイエスの弟子たちの創作です。蘇ったとされるイエスに会ったとされる女性もマグダラのマリアとされます。当時のガリラヤ地方に多くあった女性の名がマリアだったところから、新約聖書のイエス伝には、マリアの名が多く使われ、イエスの母もマリアになったと考えられます。竹若の乳母がおたつ(漢字を充てると阿多津)と名付けられたのも、当時の北総地方で多かった女性の名前から、事後につけられたとご理解ください。幼少の若君を助けたい一心で、自らの生命を落とすことになった忠義の女性の一途さを、里人たちが憐れんで、彼女が誅殺された芦原に小さな祠を建て、彼女の霊を慰めると共に、祠をおたつ様と名付けて保存したことから、乳母はおたつと呼ばれるようになったと思われます。

義胤翁は、岩戸胤安と阿多津の功績を顕彰し、後世に残すことを自分の最後の使命と感じ、二人の碑を建立することを決意したのです。岩戸胤安の顕彰碑は彼の墓のある西福寺に建てるのが可能ですが、阿多津には里人たちが建てた路傍の小さな祠しかありません。しかもその場所は足場の悪い芦原です。義胤翁は、阿多津の祠がある芦原一帯を買い取って、この地を干拓、自らの住居も一時的に白井町に移し、千葉県庁に何度も足を運んで白井の地に、何とかして阿多津の碑を建てたい、彼女は白井第6代城主の恩人であると力説したのです。体力の衰えを自覚し、余命が長くないことを自覚していた義胤翁は、千葉県庁と交渉を続けながら、鎌倉建長寺の菅原時保管主に依頼して、まずは岩戸胤安の顕彰碑を西福寺に建てました。1928年(昭和3年)10月のことでした。さらに白井家中興の祖、6代興胤が建立した円応寺に、忠臣岩戸胤安の墓と記した墓石も建てました。こうして阿多津の碑の建立だけが残されたのです。翁は、阿多津が誅殺されたとされる芦原、里人が彼女を憐れんで建立した小祠が、いつ頃からか咳止め石として信仰されるようになって、今日に至っていることも告げ、最後は自費で造成した芦原を、白井町と千葉県に公園として無償譲渡すると約束して、ようやく建立許可をとりつけたのです。阿多津の碑は、1929年(昭和4年)3月に建立されました。翁は碑の建立を見届け、同年5月85歳の生涯を閉じたのです。

追記 阿多津の碑は、印旛沼の洪水で倒れ、石碑が倒れて割れているため、無理に復元しようとすると、完全に割れてしまう危険が高いため、修復せずに倒れた状態のまま保存されています。(続く)



岩戸胤安碑(西福寺) 岩戸胤安墓(円応寺)



倒れたままのおたつの碑



おたつの小祠